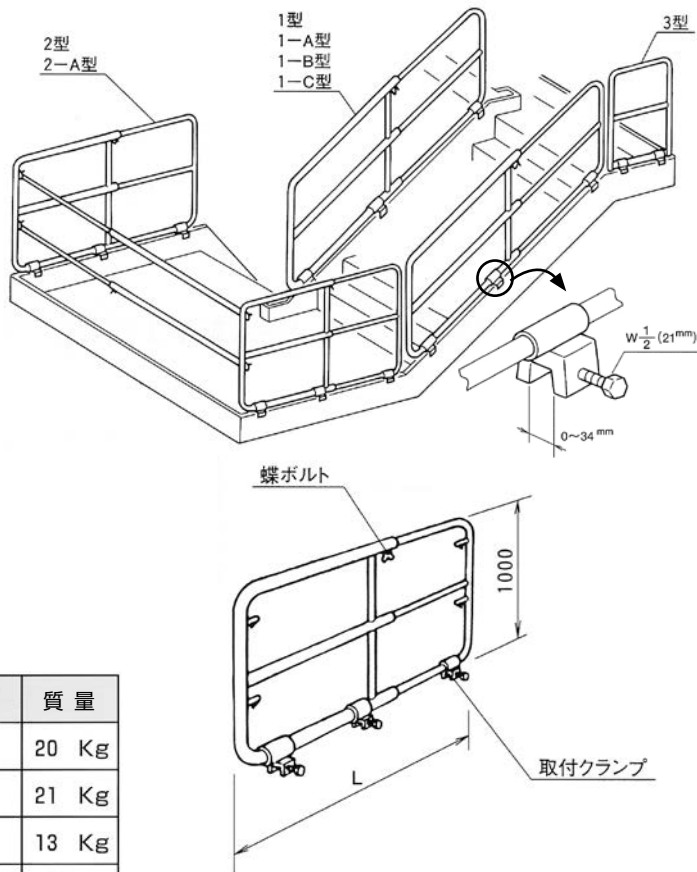


開口部養生部材

テッスル

参考 使用例



DATA 品名・規格・寸法

形状	形式	サイズ (L)	質量
	1 型	2040~3570	20 Kg
	1-A 型	2290~3820	21 Kg
	1-B 型	1290~1870	13 Kg
	1-C 型	600	8 Kg
	2 型	900~1300	11 Kg
	2-A 型	1470~2420	16 Kg
	3 型	550	8 Kg
	踏 板	915 × 235	4 Kg
	C型鋼用 取付金具	—	1.5Kg

注意

- ①各規格サイズ以上伸ばして使用しないで下さい。
- ②取付クランプ、各ボルトは確実に締めて使用して下さい。
- ③安全帯のロープ、親綱、控え、壁つなぎ、足場板などの支持点又は、資材荷上げの吊り元に使用しないで下さい。
- ④材料などを立て掛けないで下さい。
- ⑤上棧又は中棧を踏み棧代わりに使用しないで下さい。
- ⑥階段折り返し部の隙間が大きい場合は、現場にてチェーン等で養生お願い致します。

説明

- ①鉄骨階段ささら部を挟み込み設置する。挟み巾は34mmまで可能。
- ②従来工法より数量の拾い出しが伸縮構造のため、管理が容易である。
- ③仮設、解体作業が一人で簡単に寸法を測らずにできる。
- ④取り付け部が、軽みぞ型鋼などの場合は、C型鋼用取付金具により取り付けられる。

スタンション

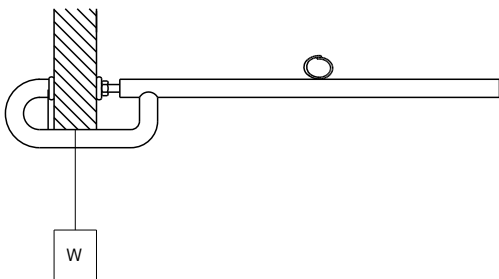
⚠ 注意

- ① ハンドレール（手摺）は単管を使用して下さい。
- ② 標準取付間隔は1.8mです。
- ③ 親綱支柱としては絶対に使用しないで下さい。

NRE型	8.0kg	S-I型	6.2kg	H型	6.2kg	カードポスト60S	8.5kg
縮付厚さ 0~600mm		縮付厚さ 0~80mm		縮付厚さ 0~45mm			

●取付け部のすべり

(表の荷重に対して、すべりを生じないこと。)

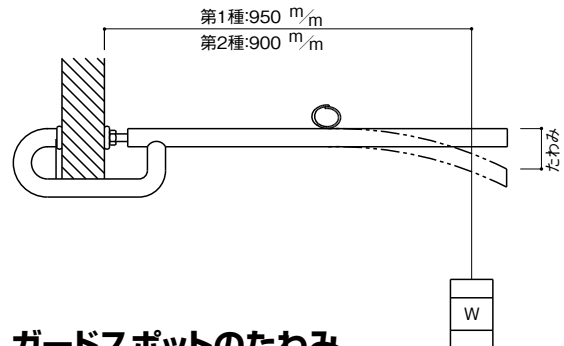


取付部の種類別荷重 ねじ部の締付トルク

種類	荷重 W	ボルトの径	締付トルク
第1種	85kgf(833N)	22mm	530kgf・cm(5,198N・cm)
第2種	40kgf(392N)		

●たわみ及び曲げ強度

(上機取付部に荷重が作用したとき表の条件を満たすこと。)



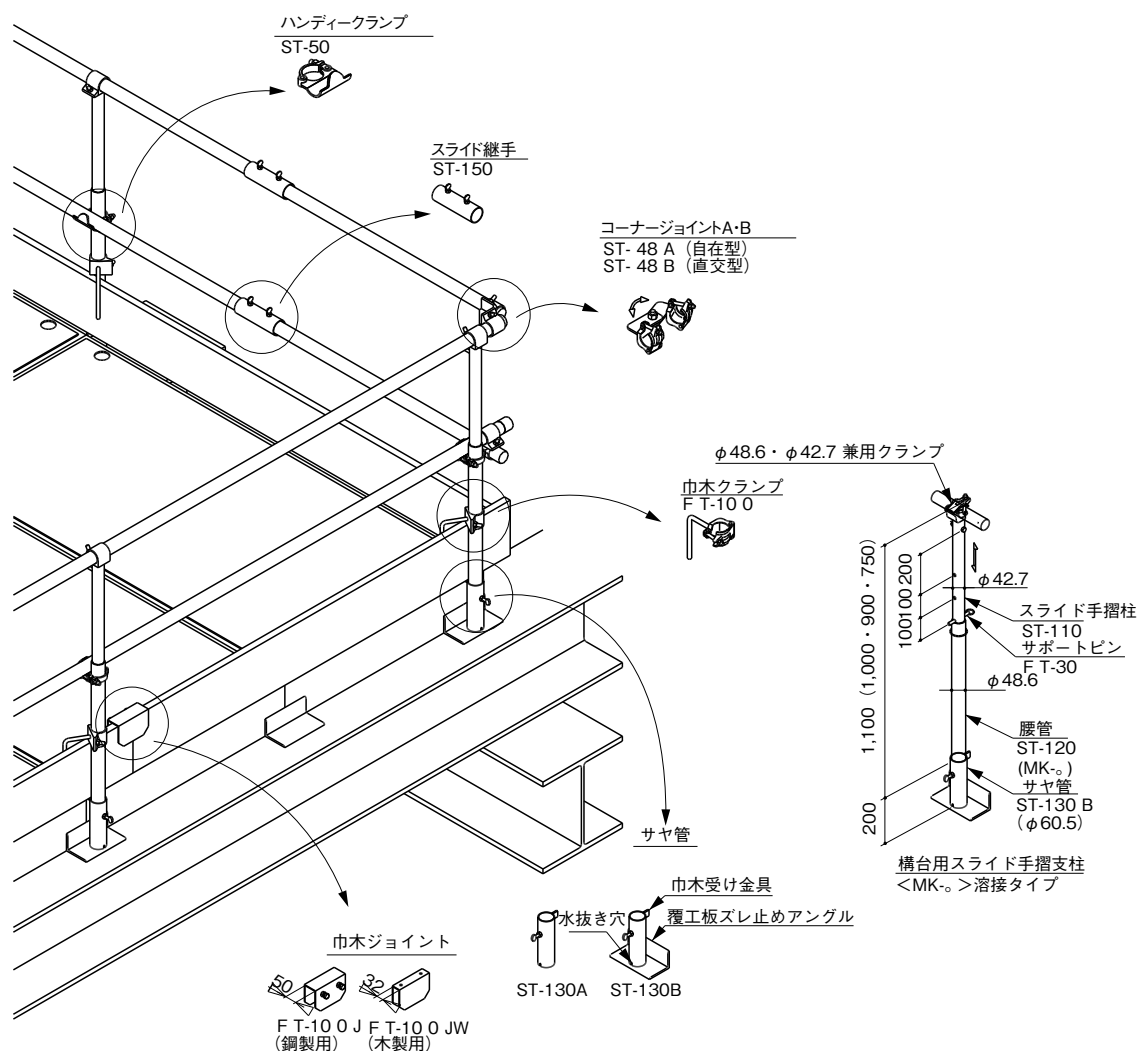
ガードスポットのたわみ及び曲げ強度試験

種類	たわみ		曲げ強度
	荷重 W	全個数のうち最大の値	
第1種	85kgf(833N)	100mm以下 110mm以下	160kgf(1,569N)の荷重で破壊しないこと
第2種	40kgf(392N)	100mm以下 110mm以下	100kgf(981N)の荷重で破壊しないこと

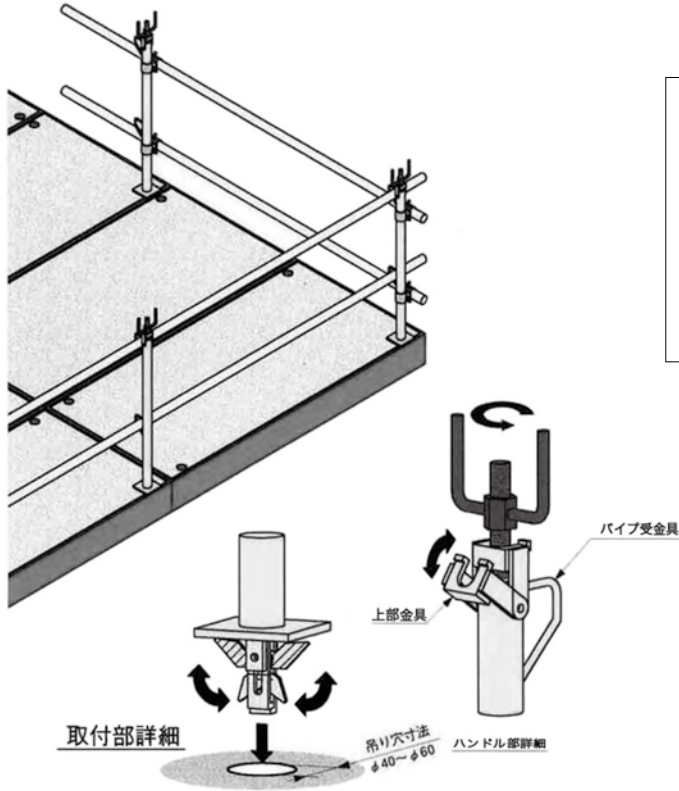
ハンディスタンション

説明

- ① 構台上で作業安全確保のためのスライド手摺
クローラクレーンなどのカウンターウェイトが旋回する時、手摺に干渉する場合には手摺を上下にスライドさせて高さを自由に調節できます。(750~1,100mm)
構台用スライド手摺には、MK-I=溶接タイプと、MK-II=ネジ方式の2タイプがあります。
ネジタイプ(MK-II)の場合は覆工板の吊穴を利用して簡単に取り付けられます。覆工板の開閉が予想される場合には溶接タイプ(MK-I)の方が架設取り外しが不要となり、便利です。
- ② コーナジョイント(直交型・自在型継手)もクランプの取り付けが簡単で、手摺を同じ高さに架設できます。幅木ジョイントを使用すると作業が簡単です。(木製専用)
- ③ 幅木止めクランプは1枚でも2枚でも兼用で固定できます。



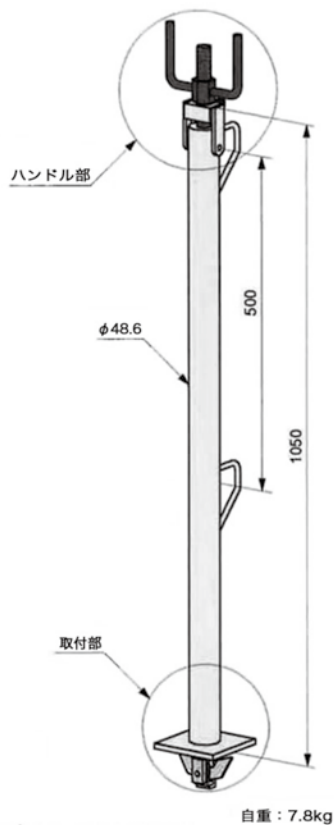
覆工板用手摺支柱



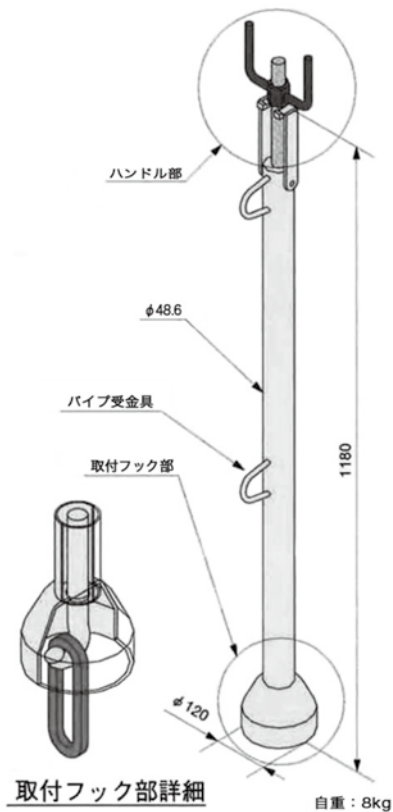
⚠ 注意

覆工板のメーカーにより、パイプ受金具の向きが（手摺方向より90°）変わる場合があります。その場合、単管クランプにて手摺を取付けて下さい。

☆覆工板の吊り穴を利用して簡単に設置出来ます。穴へ差し込み上部金具を矢印の方向へはめ込みます。ハンドルを回すことによりツメが開き固定します。手摺は、本体のパイプ受金具に通して下さい。



覆工板用 **ST-550**



取付フック部詳細

コンポデッキ用 **ST-600**

ラージテッスル

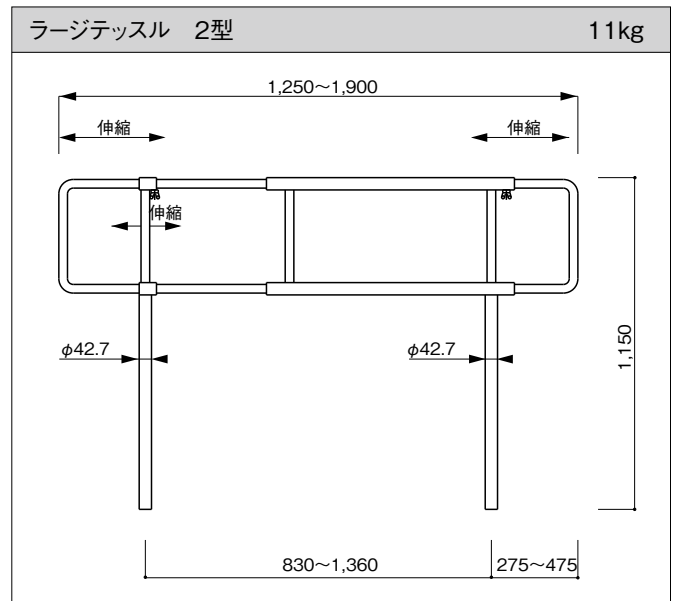
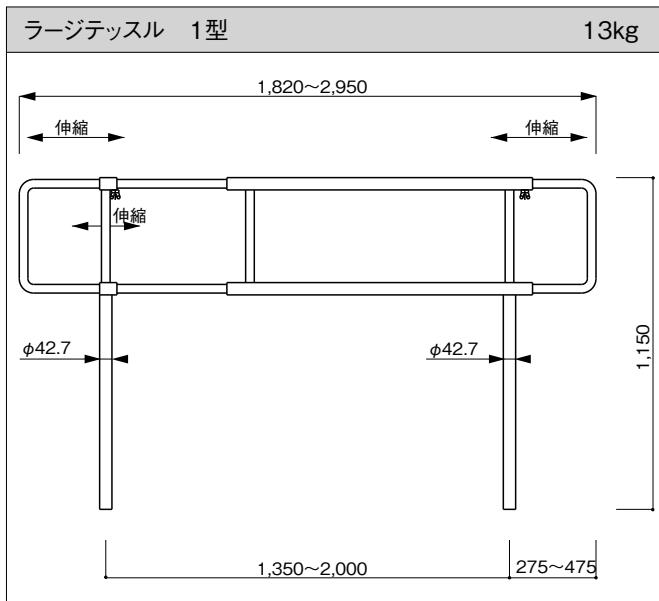
説明

- ① 開口部分墜落・転落防止として、軽量かつ伸縮構造などから取り付け、取り外しが簡単である。
- ② 単管、クランプ、専用工具等を必要としない。
- ③ サヤ管にモルタルが入るのを防ぐために、従来はガムテープ・ビニール・発泡スチロール等で養生していたが、専用のゴムキャップでカバーでき、簡単である。
- ④ 手摺がスライド式なため、サヤ管のピッチが決めていたピッチより左右にずれても支障なく取り付けができる。

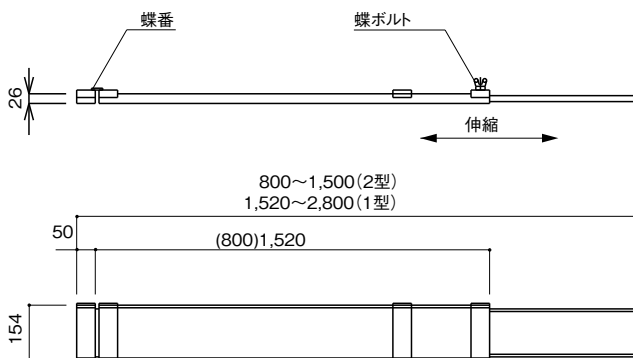


注意

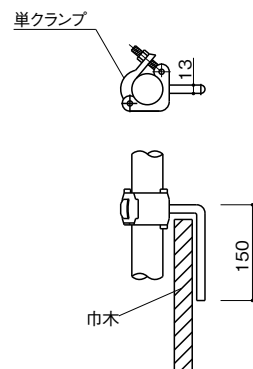
- ① 安全帯のロープ、親綱、控え、壁つなぎ、足場板などの支持点又は、資材荷上げの吊り元に使用しないで下さい。



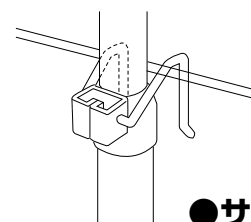
●幅木



●幅木止めクランプ



●幅木止め金具

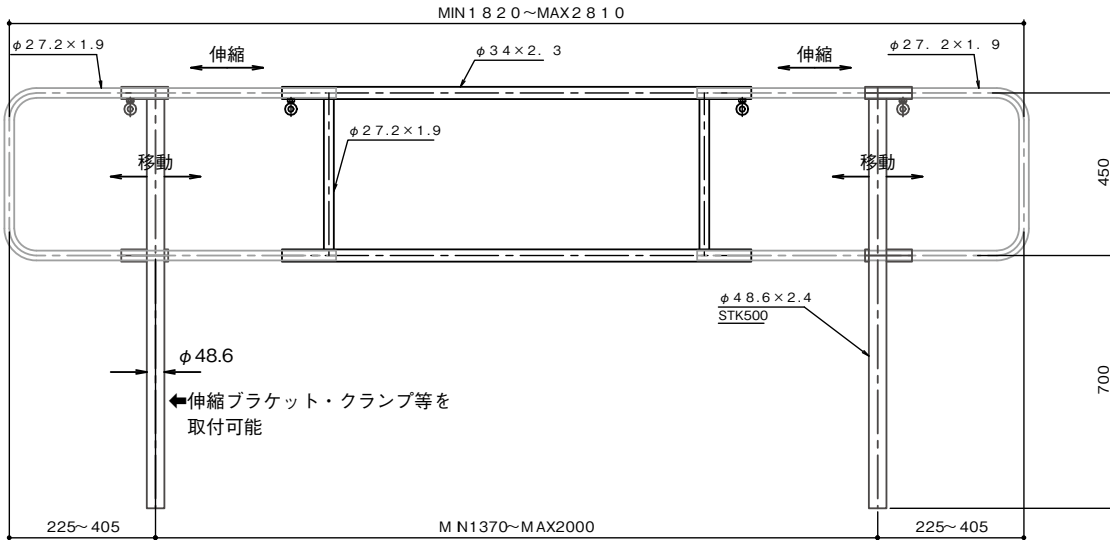


●サヤブーツ (販売品)

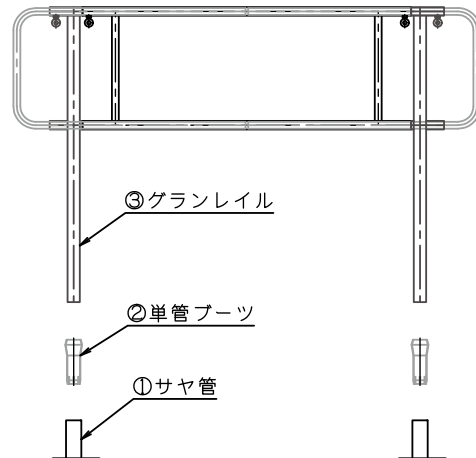
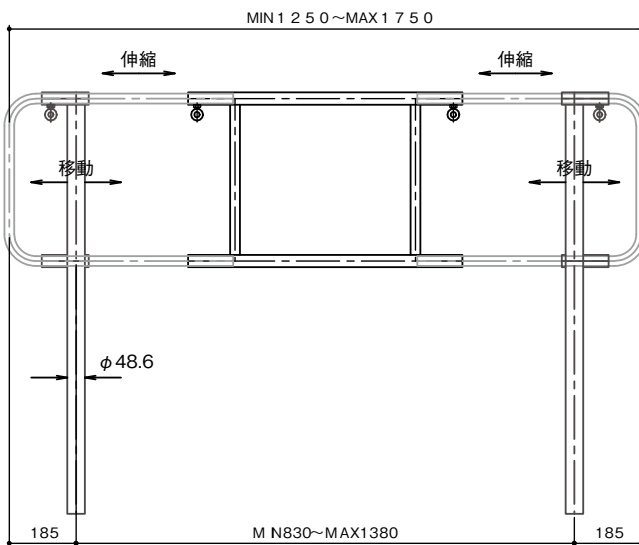


グランレイル

●グランレイル1型 (18.5kg)

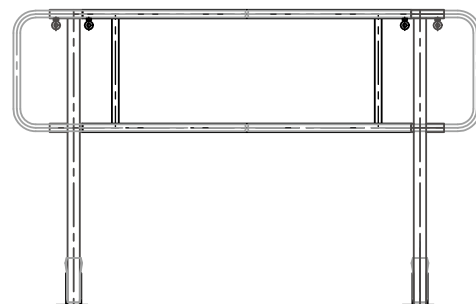


●グランレイル2型 (15.5kg)

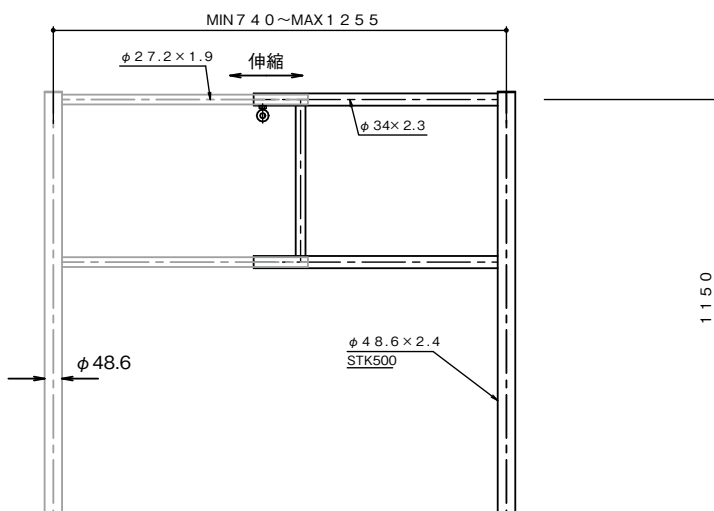


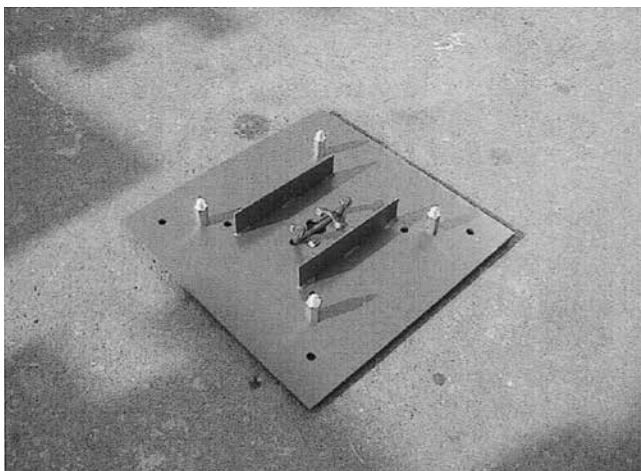
説明

- ①サヤ管を溶接します。φ60.5×3.2tを使用。高さは、各スラブ厚よりマイナス5~10mmとする。
- ②サヤ管に単管ブーツを入れます。
- ③グランレイルの脚を単管ブーツの入ったサヤ管に差込み、力強く最後まで押し込んで下さい。



●グランレイル3型 (12kg)





DATA 仕様

品番	寸法	重量 (kg)
AC-6/61-122	1220×610×6t	37kg
AC-6/68-91	910×680×6t	31kg
AC-6/45-91	910×450×6t	20kg
AC-6/60-60	600×600×6t	16.5kg

説明

- ① スラブ面との段差が少ない。
- ② 正方形／長方形／円形の開口部に対応。
- ③ 同型種連結により側溝に対応。
- ④ 長期間の使用が可能。
- ⑤ 産業廃棄物の減少。

使用方法

- ① 規格養生蓋に合わせ、開口型枠を組みます。
※固定リブ(ズレ止め)寸法に合わせて型枠を組んで下さい。
- ② コンクリート打設後、開口部実寸法を確認します。
- ③ 1. 養生蓋の裏に取り付けてある固定リブをズレ止として利用する開口の場合は、そのまま設置します。
2. ボルトナットをズレ止として利用する開口の場合は、ボルトナットを養生蓋に取り付けた後設置します。
- ④ 連結にて使用する場合は、接続金具を連結孔にセットします。

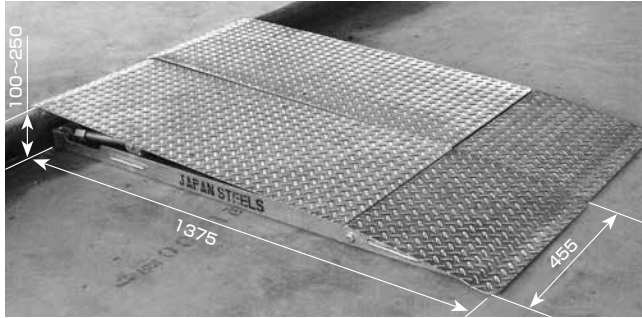
注意

- ① 開口寸法にあった養生蓋をご使用下さい。
- ② 開口の形状をご確認下さい(欠き込み/テーパー等)。
- ③ 開口寸法の違う開口への転用は絶対にしないで下さい。
- ④ 転用時は再度寸法・形状を御確認下さい。又は弊社にお問い合わせ下さい。
- ⑤ 設置／開閉の際は必ず取手を使用して下さい。
- ⑥ 人の通行以外、過剰な荷重は禁止です。
- ⑦ 各種建設機械／車輛等の通行の場合、荷重計算で確認の上、作業所管理でご使用願います。
- ⑧ カタログ記載のサイズ以外の御注文は別途協議させていただきます。

※設置計画がある際は、弊社営業担当にお問い合わせ下さい

段差くん

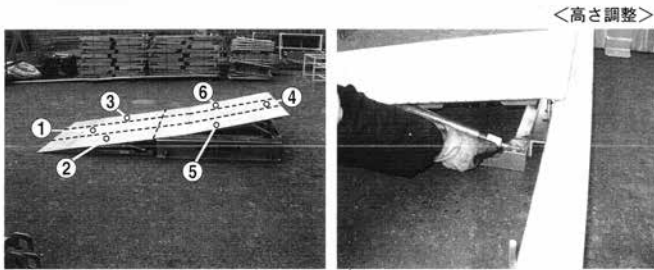
G-5/13 段差通路「段差くん」



高さ：100～250（無段階調節可）

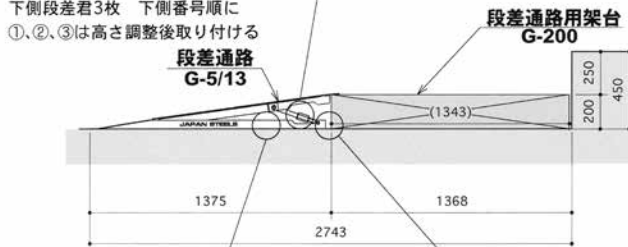
許容荷重：1000kg 自重：50kg

- ・無段階調節可能で各種段差に対応
- ・専用架台を利用して高さ450迄OK



ステップ-1

下側真ん中から設置する
下側段差君3枚 下側番号順に
①、②、③は高さ調整後取り付ける

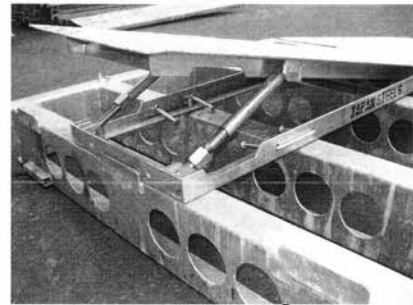


アンカー止め
2ヶ所（1台当り）
M12サイズ相当



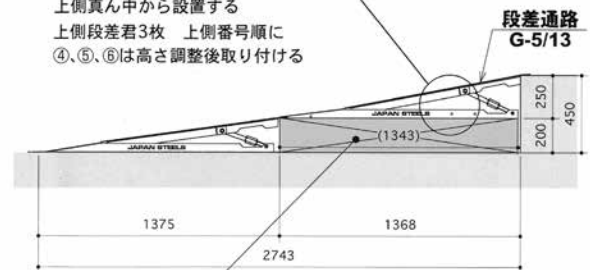
フック差し込み

＜上側段差通路取付＞

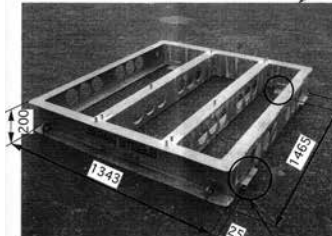


ステップ-2

上側真ん中から設置する
上側段差君3枚 上側番号順に
④、⑤、⑥は高さ調整後取り付ける



＜段差通路用架台 G-200＞（90kg）



壁側スペーサー（角パイプ）

アンカー止め・・・4ヶ所
M12サイズ相当

